

[鹿沼市]

個性豊かな県内各市町をご紹介しているこのページ。今回ご紹介するのは、城下町・宿場町として栄えたルーツを持つ鹿沼市。近年は「いちご市」宣言をして特産のいちごを柱にシティプロモーションを進めています。

～彫刻屋台で有名な祭りが ユネスコ無形文化遺産登録で注目を集める



鹿沼今宮神社祭の屋台行事



鹿沼市は、古くは鹿沼城の城下町として発展し、江戸時代には日光例幣使街道の宿場町としても栄えました。また、日光東照宮造修営に集まった職人や良質な日光杉の存在を背景に「鹿沼組子」など独自の木工細工が誕生。「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」の代名詞ともいえる彫刻屋台の一部も、近世後期に日光の宮大工の影響のもとに造られたと伝えられています。さらに、明治以降の鹿沼市は、木工業のまちとして全国的な知名度を獲得しています。

一方、今日の鹿沼市は、園芸のまちとしても有名です。市特産の鹿沼土は、保水性・排水性に優れる、まさに園芸にはうってつけの土です。とくにサツキなどの栽培に適することから、鹿沼市ではサツキの栽培が盛んに行われてきました。市内の花木センターでは、春には全国最大級のサツキの祭典である「鹿沼さつき祭り」が開催され、多くの園芸ファンでにぎわいます。

また、今年10月10日に市制70周年を迎える鹿沼市。記念事業のひとつとして、4月29日には「鹿沼 春の彫刻屋台まつり」が開催されます。



News

「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」が ユネスコ無形文化遺産へ登録

今宮神社の10月の祭りでは、龍や獅子などの豪華な彫刻を施した囃子屋台が各町から曳き出され、街をねり歩きます。江戸時代に始まるこの行事では、そろいの半纏を着た若衆が高さ約4mの屋台を曳いて各町内を回る勇壮なもので、2016年に、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

「いちごいちえ」～「いちご市」宣言で市のプロモーションに取り組む

鹿沼市の特産品は、いちご。作付面積は県内3番目で、高い品質で人気です。

鹿沼市では一昨年より、このいちごをキーワードにシティプロモーション活動を展開してきました。2016年3月にキャッチコピーを「いちごいちえ」に決定したの続き、11月には「いちご市」を宣言。現在では、市内の各所でロゴマークやいちごのモチーフを見ることができます。

「いちごいちえ」のコピーは「一期一会」と「いちご」をかけ、「いちご」の街で、人や伝統、物産、食、自然などとの「一生に一度しか起こらないような素敵な出会いやふれあいが日々生まれる」、そんな感動体験をイメージして作られました。



▲いちご市宣言セレモニー

●「ベリーちゃん」

市制50周年を記念して誕生した鹿沼市のシンボルキャラクターが、「ベリーちゃん」です。豊かな緑や清流を表した手足にいちごがモチーフの体、サツキの帽子をかぶったベリーちゃんは、市の魅力がぎゅっと詰まっています。



●市内随所にいちごのモチーフが



▲いちご色のごみ袋



▲公用車もいちご柄ラッピング



▼オリジナル婚姻届



▲街灯フラッグ



▲市庁舎にもいちご市



▲市場の看板

●まちの駅 新・鹿沼宿

まちの駅は、地域の情報提供や休憩、交流等を目的とした施設で、鹿沼市は全国最多のまちの駅が設置されています。なかでも新・鹿沼宿は、イベント開催や地元野菜の即売、鹿沼そばなど、鹿沼散策の憩いの場として親しまれています。



●屋台のまち中央公園

彫刻屋台3台を常設展示し、その歴史を紹介します。鹿沼三名園の一つ「掬翠園」を復元した庭園も魅力です。



▲彫刻屋台

●鹿沼市花木センター (ベリーちゃんハウス)

サツキを中心に草花や庭木、園芸用品を扱うガーデニングの一大流通センターで、さつき祭りや園芸フェア等のイベントも開催。昨年オープンした観光いちご園「ベリーちゃんハウス」では5月末まで、いちごを味わえます。



▲ベリーちゃんハウス

●千手山公園

小さな観覧車が目印の公園で、園内には約300本の桜と1000本超のつつじがあり、花の名所となっています。



●川上澄生美術館

版画家として県の芸術史に功績を残した川上澄生の作品を展示。建物は澄生の作品「日本越後国柏崎黒船館」を元に設計されています(改修のため3月末まで休館中)。



●城山公園

粟野城跡に造られた公園で、4月下旬～5月上旬は約2万株のヤマツツジが見頃を迎えます。



鹿沼市の見どころ

●横根高原(前日光ハイランドロッジ)

標高1300m、動植物の宝庫として知られる横根高原には「小尾瀬」と呼ばれる井戸湿原があり、その周遊コースは四季折々にすばらしい景観が楽しめます。ログハウスの簡易宿泊施設・ハイランドロッジでは食事やバーベキューが楽しめます。



▲ロッジ



▲横根高原(井戸湿原)

profile

●鹿沼市

県中央西部の鹿沼市は、高速道や東北新幹線とも連絡が容易な広域交通の要衝に位置します。古くは山岳信仰の場ともなった一帯は、戦国時代末期に鹿沼城が廃城となると、江戸時代には日光例幣使街道の宿場として賑わうようになり、町人文化の繁栄に伴い数多くの彫刻屋台がつくられました。第2次大戦後の昭和23年に市制施行、その後いく度かの周辺市町村との合併を経て、平成18年の鹿沼市・粟野町の合併で現在の市域が完成しました。

▶面積：490.64 平方 km
▶人口：96,835 人 (35,760 世帯)
(平成30年3月1日現在)

●出会の森(オートキャンプ場・いちご園)

2つの川の合流点にあるキャンプ場で、釣りや川遊び、ハイキングが楽しめます。いちご園では県を代表する品種・とちおとめと、市場に出回らないとちひめの2種類を味わえます。

